



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/12 (月)	▲ 1,100	▲ 14,400	▲ 15,500	国庫短期証券 発行・償還 (3M・6M)	補完供給 社債等買入 + 11,000 ▲ 200	国債買入 + 100	日：景況判断BSI大企業製造業 日：国内企業物価指数 欧：EU外相理事会 米：財政収支
12/13 (火)	▲ 2,000	+ 5,000	+ 3,000			CP等買入 + 4,000	米：FOMC (1日目) 米：CPI
12/14 (水)	▲ 2,000	▲ 4,000	▲ 6,000	源泉税揚げ 社会保障費 流動性供給	貸出増加 ▲ 17,400		日：日銀短観 日：鉱工業生産 米：FOMC (2日目)、FRB議長会見 欧：ユーロ圏鉱工業生産
12/15 (木)	▲ 3,000	+ 77,000	+ 74,000	年金定時払い 個人国債発行・償還			日：貿易収支 欧：ECB政策金利発表、総裁会見 米：小売売上高 米：鉱工業生産 米：NY連銀製造業景況指数
12/16 (金)	▲ 4,000	+ 18,000	+ 14,000	国債発行 (20年) 国庫短期証券 発行・償還 (6M)			欧：ユーロ圏CPI

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初480兆6,200億円から始まり、概ね横ばい圏で推移した。9日には国債（5年債）発行等により477兆3,300億円（速報）まで減少し越えた。

無担保コールON物は週を通して軟調な地合だった。前週同様、ビッドサイドの調達意欲は限定的で△0.078～△0.077%の狭いレンジで推移した。

ターム物は年内エンドとなる1W～3W物を中心に△0.078%～△0.070%のレンジで取引された。

9日、日本銀行は12月積み期のマクロ加算残高の算出に用いる基準比率について、46.5%（11月積み期44.0%）と定めた。

来週の主な予定として、国内では日銀短観（14日）、海外ではFOMC（13-14日）、米CPI（14日）が挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.087 ~ 0.001
1M	0.010 ~ 0.020
2M	0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レボ>

足許GC取引は週後半まで△0.11%～△0.10%の狭いレンジで取引された。国庫短期証券3M、6Mの発行が重なった9日の取引では、△0.09%台まで上昇した。SC取引は2年435～443回債、5年146～154回債、10年350～368回債、20年179～182回債、30年65～76回債、40年13～15回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約8,400億円で、週間償還額（約5,500億円）を上回った。発行市場は、鉄鋼や機械を中心に幅広い業態での発行が見られ活況であった。発行残高は先週末時点の28兆3,157億円から8日時点で28兆5,031億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。8日に、CP等買入オペが予定通り4,000億円でオフアされた。結果は、按分レート0.001%（前回同様）、平均落札レート0.013%（前回0.014%）と平均落札レートが前回比で小幅に低下した。

来週の週間償還額は、約1兆1,900億円となっている。発行市場は、年末に向けた資金需要や20日スタート絡みの発行が見込まれ、活況な取引を予想する。発行レートは、発行期間や発行残高等によりやや幅の広いレンジ圏での出会いを予想する。

【レンジ】CP3M (a-1+) 0.000%～0.005% 現先取引 △0.050%～0.000%

<TDB>

12月8日の6M（1125回債）の入札は、最高落札利回り△0.1162%（前回債△0.1007%）、平均落札利回り△0.1322%（前回債△0.1148%）となった。

12月9日の3M（1126回債）の入札は、最高落札利回り△0.1582%（前回債△0.1451%）、平均落札利回り△0.1708%（前回債△0.1660%）となった。

来週は12月16日に3M（1127回債）の入札がある。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005